



子ども像（仮説）共有シート

氏名

個別の支援計画（様式8）の作成に生かすため、子ども理解シート（様式6）の記載内容や、サポートマップ（様式7）を参考に検討し、関係機関を含む支援者で共有しましょう。

改善したい気になること・苦手なこと

「ノートがうまくとれない。」ことの改善により、学習意欲の向上が図られれば、「副次的に忘れ物が減る。」という仮説を立てることなどにより改善・克服を目指す課題の優先順位を検討します。

優先順位	1	ノートを上手くとれない
	2	忘れ物が多い。
	3	かばんの中を整理することができない。

気になること・苦手なことの背景



（なぜ課題が顕在化しているか？）

本人にある実態	上記順位	人や場面などとの関連
- 文章の読み取りが苦手である。 - 机上の整理整頓ができない。 - 一定の姿勢保持が困難である。 - 苦手な学習が多く、学習に意欲をもつことができない。	1	視覚的な刺激や聴覚的な刺激に反応しやすく注意が散漫になる。
- その時にやりたいことが優先される。 - 時間割が書かれた学級通信をなくす。 - 自宅自室の整理整頓ができない。	2	家族からの声かけて教科書などをしぶしぶ準備するが、保護者は確認していない。
「課題が顕在化している背景」を検討・整理することは、個別の支援計画の作成に向け欠かすことができない作業になります。		3

改善に向け生かせそうなよさ・できること

上記順位	1	・漢字を書くのが得意である。 ・刺激の少ない環境では、比較的集中が持続する。 ・勉強がわかるようになりたいと思っている。	支援の手立てに生かすことを念頭に、改善を目指す課題に関連した「よさ・できること」を検討・整理します。
	2	・決めつけられたスケジュールを守ることができる。 ・学校でほめられると得意気な顔で母に報告する。	
	3	個別の支援計画がよりお子さんの実態に即したものになるよう、お子さんにある状態像を整理し仮説として支援者が共有できるよう記入してください。	